

Topics

年末年始、海外渡航する方もしない方も“麻しん(はしか)”に注意！

これから年末年始を迎え、海外渡航者や海外からの旅行者が増加する時期となります。この時期注意したい感染症が、“麻しん(はしか)”です。2024年においては、海外からの輸入症例や海外に渡航歴のない症例の発生が相次いでいます。千葉県においては、2024年11月に船橋市において麻しん症例が発生しています。現時点で、市川保健所管内においては確認されていません。

連休前に、麻しんの感染対策や発生時の対応について振り返りましょう。

—— 麻しんとは？

感染すると、通常10日から12日後に37℃前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血などが約2日から4日間続き、解熱後再び39℃以上の高熱と発疹が出現します。

肺炎や中耳炎等を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症すると言われています。また、死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人と言われています。

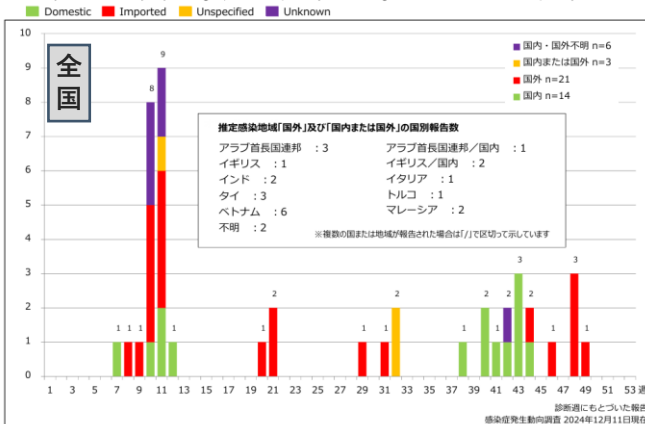
主な感染経路は空気感染です。感染力は非常に強く、ワクチン接種していない等の理由で免疫を持っていない場合、ほぼ100%感染し発症するといわれています。感染可能期間は、症状が出現する1日前から解熱後3日間まで(発熱が見られなかった場合は、発疹出現後5日間まで)といわれています。

—— 過去発生した麻しん集団感染事例（2017年3月～2017年5月、山形県） ——

関東在住の20代男性がインドネシアから帰国し、3/2から山形県内のホテルに滞在。3/3から症状が出現し、3/8に医療機関に受診、3/9に麻しんが確定した。家庭内、職場、立ち寄り先など調査範囲が広範囲にわたり、調査対象は約3,700人となった。また、5都県7人を含む60人が麻しんと診断された。

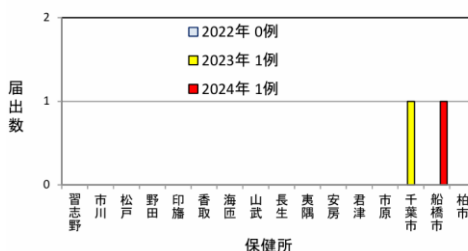
8. 週別推定感染地域(国内・外)別麻しん報告数 2024年 第1～49週 (n=44)

Weekly measles cases by acquired region, week 1-49, 2024 (based on diagnosed week as of December 11, 2024)



千葉

2022年～2024年千葉県の麻しん保健所別届出数



1. 2024年千葉県の届出状況

No.	保健所	性別	年齢	病型	発症日	診断日	診断週	接種歴	遺伝子型	備考
							1回目 (年齢)	2回目 (年齢)		

1 船橋市 男 10歳未満 麻しん(検査診断例) 11月19日 11月25日 48週 無 無 - 渡航・滞在先(ベトナム)

—— 普段の対策は？

一般の方 手洗いやマスクは十分な予防が出来ません。ワクチンで予防しましょう！

麻しんは空気感染するため、手洗いやマスクでは十分な予防ができません。そのため、ワクチンによる予防が最も重要です。

日本においては、予防接種法において第1期と第2期を対象として、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)の定期接種が導入されています。

海外渡航前は必ず予防接種歴を確認してください。

第1期：1歳児

第2期：小学校入学前1年間の幼児



施設 園児、生徒、利用者、職員のワクチン接種歴の確認を！

保育園や学校等の施設では、麻しん発生時に備えて、園児や生徒、職員の予防接種状況を把握しておくことが重要です。特に、MR第1期、第2期の接種時期に合わせて確認しましょう。予防接種を受けていない場合は、接種の勧奨を行いましょう。

確認時は、「記憶」ではなく母子手帳等の「記録」に基づいて確実に把握しましょう。

【参考】[学校における麻しん対策ガイドライン第二版](#)

医療機関 職員のワクチン接種歴や抗体価の確認を！マニュアルの整備も忘れずに

医療機関では、麻しんウイルスの曝露を受ける頻度が多いことに加えて、発症した際は周囲に大きな影響を与えます。職員や実習生等の麻しん罹患歴や予防接種歴、抗体価を確認しておくことが重要です。確認時は、「記憶」ではなく母子健康手帳等の「記録」に基づいて確実に把握しましょう。

以下の①及び②のいずれも確認できなかった場合は、最低1カ月以上空けて2回の麻しん含有ワクチンの接種を受けるか、抗体価を測定しましょう。

① 罹患歴



② 2回の予防接種歴



【参考】[医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版](#)

抗体価の測定は、酵素抗体法(EIA法)またはゼラチン粒子凝集法(PA法)を用います。

	陰性	陽性 (基準を満たさない)	陽性 (基準を満たす)
	感染に対する抵抗力なし		感染に対する抵抗力あり
EIA法 (IgG)	陰性	(±) ~16.0	16.0以上
PA法	<1:16	1:16,32,64,128	1:256以上

また、発熱や発疹患者の問診に関して、以下項目を聴取することをお勧めします。

- ・発症前1~3週間の発熱や発疹患者との接触の有無
- ・麻しん風しんワクチンの接種歴の確認
- ・海外渡航歴等の行動履歴

など



—— 発生時の対応は？

一般の方

受診時は要注意！必ず医療機関に事前連絡をしてから受診しましょう

一旦解熱して再度発熱するような「二峰性」の熱がある場合や、手足等に発疹が出現し、疑わしい症状がある場合は、医療機関受診前に必ず連絡し、医療機関の指示に従いましょう。

施設

接触者のリストアップをお願いいたします

乳幼児施設や学校において、特に免疫のない乳幼児がいる場合、感染拡大防止のために接触者を迅速に把握する必要があります。保健所から関係施設に対して、リストアップを依頼することがありますので、ご協力をお願いいたします。

医療機関

検体採取と接触者のリストアップをお願いいたします

接触者を増やさないために、導線を確保し、患者が使用した空間に2時間※は他の患者を入れないようにしてください

※空調が共通の空間に麻疹患者と同時に滞在していた者や、患者がその空間から離れた後少なくとも1時間（最大2時間）以内にその空間に滞在した者は、患者と同一空間を共有したと考え、接触者となります。

問診時には、麻しん罹患歴や予防接種歴、海外渡航歴等を確認してください。

また、接触者の把握のため、接触者のリストアップをお願いすることがあります。ご協力をお願いいたします。

患者が帰宅する場合は、公共交通機関(タクシー含む)や薬局、その他店舗等に立ち寄らないようご指導ください。

【参考】 [医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版](#)